

2020年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業」
成果報告書

2020年3月
玉野市教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、玉野市教育委員会が実施した2020年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

玉野市では、若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）（※平成29年3月に基本構想策定）」を掲げ、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の推進の取組の中で、スポーツ活動等を通じて障害者の社会参画の場の創出や障害の有無に関わらず地域で活躍できる場の提供等が主要事項の1つとなっています。

玉野市はスポーツが盛んであり、多くの市民がスポーツに関心を持っていることから、たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）で掲げる共生社会の理念を全市に広げるには、スポーツを活用することが最も効率的・効果的であると考えており、①市民が障害者スポーツ活動を通じて障害者理解（心のバリアフリー）を深めることができるための普及プログラムの推進、②障害者が身近にスポーツ活動に取り組むことができる環境の充実、を車の両輪として、障害者スポーツに関する事業に総合的に取り組んでいるところであります。

平成30年度から本事業を受託し、具体的な取組として、障害者福祉施設等への訪問型プログラムや市立体育施設での障害者スポーツ普及プログラム等の開発・実施に取り組んでまいりました。

1年目の取組により、市民向けの障害者スポーツプログラムを通じて障害者理解の促進が図られはじめ、2年目の取組では、障害福祉関係者等との連携の更なる充実（身体・知的障害）・新規開拓（聴覚障害）等が図られたとともに、障害当事者の参画が増加したことなどが成果として目に見えて表れてきました。さらに、2年目には各試行プログラムにスポーツ推進委員等地域で活躍する方に積極的な参画を呼びかけ、市立体育施設職員のみならず、スポーツ推進委員等にも障害者スポーツに関する知見が蓄積されはじめたことも成果でありました。

しかしながら、特に障害当事者に対するプログラムは経験を重ねての蓄積によるところが大きく、1・2年目で感じた指導等の難しさや、新規団体・参加者との関係づくりの難しさなどを踏まえ、プログラムの工夫等をスポーツ推進委員等と一緒に解決すること、また、多くの子ども達が障害者スポーツを体験していることから、教員への普及も重要な観点であると考えました。

そこで、最終年度となる令和2年度は、これまでの取組の集大成として、試行プログラムを通じて、地域で様々な役割を持って活躍するスポーツ推進委員等の育成・活用を図るとともに、1年目から重点的に取り組んでいる障害福祉施設等との

連携によるアウトリーチプログラムの連携充実・新規開拓、障害当事者以外も巻き込んだ障害者スポーツ普及プログラムの充実、市小中学校体育部会との連携による現職教員への普及活動に取り組み、関係者との連携の充実・強化と、障害当事者の参画を一層促す取組等につなげていきたいとの考えをもとに、以下の観点から取組を推進しました。

A. 研修プログラムの実施

市立体育施設職員又は障害者スポーツ資格を有する近隣の特別支援学校教員等が講師となり、スポーツ推進委員等や市小中学校教員に対する実践的な研修プログラムを実施。また、夏以降に開催予定の試行プログラムへの参加を促進し、実践力を高める。

- ①地域で様々な役割を持って活躍するスポーツ推進委員等向け研修プログラム
- ②市内小中学校の現職教員への研修プログラム

B. 試行プログラムの実施

以下の①から③のプログラムを計6回試行実施する。なお、6回のうち3回は外部講師を招聘して実施（市立体育施設のプログラム指導員やスポーツ推進委員等が指導法を学ぶ機会）。その他の回は、市立体育施設職員やスポーツ推進委員等が研修の成果を活かして実施し、市立体育施設のプログラム機能の充実を図ることとする。

- ①市立体育施設や地域の体育館での障害者スポーツ普及プログラムの開発・実施（3回）

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者（特別支援学級関係団体等とも連携）が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行実施し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高めるとともに、市立体育施設から距離のある地域の体育館での取組の普及を推進する。

- ②障害者福祉施設・団体等への訪問型プログラムの開発・実施（2回）

障害者福祉施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムへの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

③民間スポーツ施設や競技団体と連携し、障害者スポーツ普及プログラムの開発・実施（1回）

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組が宇野港で定着するよう、普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体等との連携強化を図る。

今年度は、新型コロナ感染拡大のため、一部中止や内容・時期を変更したものもありますが、A研修プログラムについては、①が15人、②が21人、またB試行プログラムについては、①が3回、②が2回、③は残念ながら実施できませんでしたが、5回で計103人の参加がありました。②のプログラムでは、子どもを含む障害当事者の参加がメインであったり、①のプログラムでは特別支援学級の児童生徒を対象にしたものもあり、多くの障害当事者の参加もありました。また、パラリンピアンによる指導もあり、パラスポーツに触れるだけでなく、競技の魅力を知ったり、共生社会について考える機会となりました。

特に今年度成果があった取組としては、新たな障害福祉団体等と連携した訪問プログラムが実施できたこと、また、現職教員向けの研修プログラムが実施できたことです。新型コロナ感染拡大に伴う予防対策として、ブラインドサッカー体験が中止となったことは残念でしたが、令和3年2月に行われたWEBでのスポーツ庁報告会によると、ほとんど開催出来なかった団体もあったようですので、本市は感染対策を十分に徹底し、色々な事業が実施出来た方であると感じております。

スポーツ庁委託事業としては今年度で最終となりますが、これまで3年間で蓄積された経験や知識、また、構築された障害者福祉団体やスポーツ推進委員等との連携をもとに、障害者スポーツが本市において「定着」し、「たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）」に掲げる共生社会の実現に更に近づけるよう、引き続き取組を続けていく予定です。

1. 各プログラムの概要

A. 研修プログラム

- ①地域で様々な役割を持って活躍するスポーツ推進委員等向け研修プログラム
令和2年 8月20日 レクセセンター体育館・・・1
- ②市内小中学校現職教員への研修プログラム
令和2年11月10日 レクセセンター体育館・・・2

B. 試行プログラム

- ①市立体育施設や地域の体育館での障害者スポーツ普及プログラム
 - 1回目 令和2年 8月22日 レクセセンター体育館・・・3
 - 2回目 令和2年10月29日 レクセセンター体育館・・・4
 - 3回目 令和3年 1月15日 市立大崎小学校体育館・・・5
- ②障害者福祉施設・団体等への訪問型プログラム
 - 1回目 令和2年10月 9日 同舟の園・・・6
 - 2回目 令和2年11月20日 荘内市民センター・・・7

それぞれの試行プログラムの概要やスタッフの感想等は次ページからを参照してください。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

1 「スポーツ推進委員研修プログラム」 報告書

1. 趣旨

地域で様々な役割を持って活躍するスポーツ推進委員向けの研修プログラムを実施し、障害者スポーツへの興味・関心を高め、今後の試行プログラムへの参加を促進する。

2. 実施日

2020年8月20日（木） 18:30～20:00

3. 場所

玉野市総合体育館 アリーナ

4. 内容

8/22（土）あすなろ会親子体操で実施する内容

スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスクなど

5. 参加者人数

スポーツ推進委員等 12名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク JV スタッフ

7. 「スポーツ推進委員研修プログラム」の様子



○8/22 あすなろ会親子体操で実施する、親子競技（リレー4種）の説明と親子分かれて行う競技（スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスク等）の内容と注意点等の説明を行いました。

【実際に体験して見てみよう】



スラックライン



ふわふわトランポリン



トランポリン



○スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスク等を実際に体験しました。体験をしながら、当日の注意点（トランポリンの飛び方や上り下りの方法、補助の付き方など）を確認しました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「スポーツ推進委員研修プログラム」では、8月22日（土）に開催する、「あすなろ会親子体操」の試行プログラム内容の説明と体験を行い、普段体験することのないスポーツに触れ、好評のうち無事研修を終えることができました。体験を通して、障害者スポーツプログラムへの興味・関心を高められたよいイベントとなりました。また、このような研修を行うことにより、イベントの周知や試行プログラムへの積極的な参加につながっています。今後も地域で様々な役割を持って活躍されるスポーツ推進委員の皆様と連携して、共生社会に向けて取り組んでまいりたいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

2 「車いすバスケット体験会」 報告書

1. 趣旨

障害者スポーツの選手・指導者を招き、玉野市の小中学校現職員の方たちの障害者スポーツの理解・関心を高めるとともに、共生社会の意識を高める。

2. 実施日

2020年11月10日（火） 15:30～16:50

3. 場所

玉野市総合体育館 アリーナ

4. 内容

車いすバスケット体験

5. 参加者人数

玉野市教職員等 21名

6. 講師紹介

岡山県車いすバスケットボール連盟 会長 田中様
岡山 WBC ウィンディア所属 丸山選手、酒井選手

7. 「車いすバスケット体験会」の様子

【講師の方々の紹介・挨拶、講演】



講師・選手紹介、挨拶、講演

○田中さん自身のこれまでの経歴や、車いすバスケットに出会ったきっかけ、車いすバスケットのルール等、わかりやすく教えてくださいました。車いすバスケットボールのルールをできるだけわかりやすくお伝えするため、「車いすバスケットのルール」を簡単にまとめた資料をお配りしました。

【選手のプレーを実際に見てみよう】



車いすの操作



ドリブル、シュート

○田中選手、酒井選手、丸山選手によるデモンストレーション。車いすの操作や、ドリブルなど解説を交えて披露してくださいました。

【車いすバスケットを体験してみよう】



車いすの乗り方



車いすの操作（前進・ターン）



車いすの操作（片手でこぐ）



車いすの操作（手を使わずにこぐ）

○3グループに分かれ、順番に車いす操作を体験しました。ゴールラインの端から端までを使い、車いすを両手でこぎ前へ進むことから、360度ターン、片手でこぐなど様々なことに挑戦しました。中でも、両手を使わず上半身と腕の動きだけで前へ進む操作では参加者の方々は苦戦されていましたが、とても楽しそうに取り組まれていました。



リレー



○車いすをバトンとして、3グループでリレーを行いました。ゴールラインの端から端までの往復で、最後の半分は手を使わずに進みバトンタッチをしました。練習したことを活かしながら、チームで声を掛け合い応援するなどして大変盛り上がりました。



シュート練習



○シュート練習を行いました。今回は大人の参加者のみだったので、一般のバスケットボールと同じゴールの高さで挑戦しました。車いすに座ったままのシュートは下半身を使えない為、ゴールまでシュートが届かない方もおられましたが、投げ方を工夫しながら頑張られていました。



試合



○最後に7人1グループになり、講師の先生方3名対1グループ(7人)で5分間の試合を行いました。なかなかドリブルが練習の時のようにうまくできなかつたり、パスが思い通りにいかず苦戦したりしていましたが、仲間に声をかけながらゴールを目指して一生懸命取り組んでいました。



質問コーナー

○体験会終了後、質問コーナーを設けました。参加者からは、講師の先生方が所属している車いすバスケットボールチームの取り組みや、選手の中でパラリンピックに出場予定の方はいますか等、質問がありました。残念ながらパラリンピック出場予定の選手は現在いませんが、ジュニアオリンピックの代表候補生として合宿へ参加している選手がいるので、ぜひチームも含めて応援をお願いしますとおっしゃっていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「車いすバスケ体験会」では、岡山県の車いすバスケットボールチームの選手3名を迎えて普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、好評のうち無事イベントを終えることができました。体験を通して、玉野市の教職員の方々には車いすバスケや障害者スポーツへの興味・関心を高められたよいイベントとなりました。今回は80分と短時間での開催でしたが、人数も20名程度と比較的少なめの人数だったこともあり、その分1人1人が体験できる時間が増え、より満足度も高かったように思います。講師の方からのご提案で、体験会参加前に車いすバスケのルールをわかりやすく説明している動画を見ていただくように案内をしたり(日本車いすバスケットボールのHPにて)、当日も車いすバスケットボールのルールについて簡単にまとめた資料を配布することで、よりスムーズにわかりやすく体験会が実施できたかと思えます。また、今後も障害者スポーツへ触れられる機会を積極的に作っていただけるよう、体験会終了後に参加者の皆様へ障害者スポーツ等のスポーツ用具貸し出し案内を配布しました。体験会で感じたことを学校や地域へ持ち帰っていただき、更なる障害者スポーツ推進につなげていければと思います。

岡山県で頑張られている車いすバスケットボールチームがあるということをもっと多くの人に知っていただき、その機会を多く作ることで、より障害者スポーツが身近となり共生社会に向けての取り組みが広がっていくと思えます。今後も講師に来てくださった岡山県車いすバスケットボール連盟様及び岡山WBCウィンディアの皆様とのつながりを大切にしながら、障害者スポーツ推進に努めて参ります。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

3 「あすなる会 親子体操」 報告書

1. 趣旨

玉野市支援学級事務局と連携し、支援の必要な子どもたちとその親が気軽に楽しめる運動プログラムを実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2020年8月22日（土） 10:00～12:00

3. 場所

玉野市総合体育館（アリーナ）

4. 内容

(1部) チーム対抗レクリエーションリレー

大玉転がし、ボールで聖火リレー、お買い物競争リレー、親子であそ棒リレー

(2部) 親子分かれての運動

子供：スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスク

親：かんたんヨガ

5. 参加者人数

30名

6. 講師紹介

スラックライン日本人初の世界チャンピオン 大杉 徹（ガッパイ）さん

7. 「あすなる会 親子体操」の様子

【準備体操】○準備体操として全員で「パプリカ」を踊りました。





大玉転がしリレー



ボールで聖火リレー



お買い物競争リレー



親子であそ棒リレー

○1部は親子一緒にチーム対抗リレーを行いました。事前に2チームに分け、種目は全4種（親子一緒に大玉を転がして進む大玉転がしリレー、コーンの上にボールを乗せ、落とさないように走るボールで聖火リレー、コースの途中にある紙をひっくり返して書いてある物を取って帰ってくるお買い物競争リレー、長い棒を一緒に持って走る親子であそ棒リレー）を実施しました。親子一緒に取り組むことができるプログラムで、子供たちも楽しんでいました。

【大杉 徹（ガッパイ）さん紹介、デモンストレーション】



大杉徹さんデモンストレーション



目隠しをした状態でのパフォーマンス

○日本人ではじめてスラックライン世界チャンピオンになった大杉徹さんを講師に迎え、スラックライン体験を行いました。大杉さんによるデモンストレーションでは、基本のバランス技や目隠しをした状態でのパフォーマンス、更に肩でのバランス技など高度なパフォーマンスを披露してくださいました。素晴らしい技の数々に参加者からは歓声が上がっていました。また、質問コーナーを設け、質問をしてくださった方に大杉さんのサイン色紙をお渡ししました。

【2部 親子わかれての運動】

子供：スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスク

親：かんたんヨガ



スラックライン



トランポリン



ふわふわトランポリン



フライングディスク



かんたんヨガ

○2部は子どもたちと親にわかれてのプログラムを行いました。子どもたちは、スラックライン、トランポリン、ふわふわトランポリン、フライングディスク体験を行い、親はかんたんヨガの体験を行いました。全体の簡単な内容と注意点などを説明したのち親子わかれての体験に移りました。子どもたちは、スラックラインやトランポリンなど、講師の方々に教わりながら楽しく取り組んでいました。スラックラインは前回同様、通常の高さよりも低く設定して行い、トランポリンも安全に考慮して周りを囲むようにマットを敷いたり、上り下りがしやすいようにトランポリンの左右に階段を設け、それぞれにスタッフを配置し安全に実施できるよう工夫しました。トランポリンは1人ずつの体験となるので混雑が予想されましたが、その他競技にも満遍なく取り組んでいただけたことで、無駄な待ち時間等もなくスムーズに行えました。フライングディスクでは子どもたちが熱心に取り組む姿に保護者の方も喜ばれていました。親は初めての方でも簡単に行えるヨガで、ストレッチや太陽礼拝、立位でのかんたんポーズ（英雄のポーズ、三角のポーズ）を体験していただきました。

子どもたちとわかれての運動で、非日常的な空間を楽しんでいただきリフレッシュできるよい機会になったと思います。昨年よりも少し長い時間ヨガの体験ができたのでよかった、リラックスできたとの声を頂きました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「あすなろ会 親子体操」では、支援の必要な子どもたちとその親が気軽に楽しめる運動プログラムを実施しスポーツを身近に感じることができる、よいイベントとなりました。前回同様1部2部にわけてのプログラム構成で、親子一緒に楽しめる内容と親子それぞれが楽しめる内容が一度に体験できたことで大変好評でした。また、大杉さんのスラックラインデモンストレーションでは、子供たちはもちろん大人の参加者の皆様もレベルの高い素晴らしいパフォーマンスに喜ばれていました。トランポリン体験やその他の体験についても、イベント準備やプログラム体験補助など玉野市スポーツ推進委員の方々にご協力いただき、安全に楽しく子どもたちが運動に取り組めるよう良い環境でイベントが実施できました。イベントを通して、健康づくりや地域交流につながったのではないかと思います。前回の課題でもあった参加人数に対して実施種目数ですが、事前に参加人数を把握し、種目を前回から1種目少なくして実施しました。人数に対しての種目数や内容も良くスムーズな体験につながったと思います。

今回の課題として、競技説明などの際BGMが流れていたのが情報過多で説明に集中できないように思うとの声をいただいたので今後のイベントの参考にし、活かしていきたいと思います。また、リレー形式以外で親子一緒に楽しめる内容を考え、より参加される皆様に楽しんでいただけるようなイベントを実施できたらと思います。今後も玉野市支援学級事務局の方とのつながりを大切にし、施設イベントや教室等の積極的な参加につながるよう努めていきたいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

4 「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2020年10月9日（金） 13:30～14:30

3. 場所

同舟の園

4. 内容

リズム体操、ボッチャ体験、卓球バレー体験

5. 参加者人数

11名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク JV スタッフ（大田、岡野）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【スタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介、プログラム説明などを行いました。

【ストレッチ、リズム体操】



○簡単なストレッチやリズム体操を行いました。手や肩を大きく動かすような動きや、全身を使った簡単なダンスを取り入れ、運動不足の解消や心身リフレッシュにつながるようなプログラムにしました。リズム体操では、「365歩のマーチ」に合わせて簡単な振り付けで踊りました。参加者の皆様は、すぐに振り付けを覚えて大きく体を動かし、楽しく取り組まれていました。

【ボッチャ体験】



ボッチャ体験

○全員で円になり、ボッチャの説明を行ってから一人1球ずつボールを持っていただき、ジャックボール（白いボール）に近づけるように投げる練習をしました。練習をした後、円になったまま赤チームと青チームの2チームに分かれて一人ずつ順番に投げて最後にジャックボールに近い色のチームが勝利というルールで体験を行いました。初めてボッチャを体験される方が多かったようですが、回数を重ねるごとに慣れていき、3回目にはジャックボールの周りに皆さんが投げたボールがたくさん集まっていました。全員が一斉に投げるのではなく、一人ずつ投げるようにしたことで自分の投げたボールの行方をしっかりと見られたり、仲間が投げる際に応援をしたりして楽しんでいました。

【卓球バレー体験】



卓球バレー体験

○全員で卓球台の周りに座り、卓球バレーの体験を行いました。練習をしながらルール（板でピン球を押し出すようにして打ち、ネットの下を通す。仲間と3回ラリーをつないでから相手のほうへ打ち返すなど）の説明をして、点数などは気にせず全員が体験できるようラリーを中心とし、席替えを行いながら実施しました。音のなるピン球を見て、「障害者卓球でもみたことあるよ」と話してくれたり、「難しいけどがんばる！楽しい！」と一生懸命に取り組んでくださりました。徐々にスタッフとのコミュニケーションも増え、大変良い雰囲気でした。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者施設訪問型プログラム」では、普段運動機会の少ない障害者に運動を通して心や体をリフレッシュして頂く機会となり、好評のうち無事イベントを終えることができました。今回はいつも通いながっている施設での実施だったこともあり、参加者の皆様も比較的にリラックスして体験していただけたように思います。実施できる種目も限られていましたが、リズム体操やポッチャ、卓球バレー全てのプログラムに一生懸命取り組んでくださりました。参加者の皆様にも大変喜んでいただき、「楽しかった、また一緒に運動しようね」と声をかけていただきました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、様々な行事がなくなっていく中でこのようなイベントは障害者の方たちにとっても、職員の方たちにとっても大変良い機会となりました。限られたスペースの中で工夫して全員で楽しむことのできるプログラムを考え実施することができたので、今後の障害者スポーツ推進事業においても楽しんでいただけるよう工夫して実施していきたいと思います。このような訪問型のプログラムを実施することで、地域とのつながりができ交流が多くなっていますが、やはり作業所外のイベント参加や健常者と障害者が一緒に楽しめるようなイベント参加にはまだ課題が残っているように感じます。交流を増やしながら知っている人や場所を増やし、安心して参加できる環境づくりに努めていきたいです。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

5 「車いすバスケ体験会」 報告書

1. 趣旨

障害者スポーツの選手・指導者を招き、皆で楽しみながら障害者スポーツに対する興味・関心を高め、玉野市の障害者スポーツを推進する。障害者スポーツの体験を通して全ての人が社会の一員としてお互いに尊重し、支えあいながら明るい笑顔暮らす共生社会の実現を目指す。

2. 実施日

2020年10月29日（木） 14:00～16:00

3. 場所

玉野市総合体育館 アリーナ

4. 内容

車いすバスケ体験、ボッチャ体験

5. 参加者人数

市内学校関係者、行政関係者、人権教育推進員関係者、一般市民等 46名

6. 講師紹介

元プロ車いすバスケットボール選手 堀江 航さん

7. 「車いすバスケ体験会（人権教育課題別研修講座）」の様子

【玉野市社会教育課挨拶、講座の流れ等の説明、講師紹介】



【堀江 航選手の挨拶、講演】



堀江 航選手紹介、挨拶



講演

○堀江選手からご自身の車いすバスケの経歴や様々なスポーツ（パラアイススレッジホッケー、パラカヌー等）への挑戦などについてお話しいただきました。また、通常の車いすと競技用車いすの違いや、車椅子バスケットボールのルール等についてもわかりやすく説明していただきました。



○ポッチャのルールなどについても説明していただきました。講師の堀江さんと参加者ので実際に体験しながらの説明で皆様興味を持たれていました。

【車いすバスケを体験してみよう】



車いす操作



鬼ごっこ

○競技用車いすに乗って、自由にコート内を走り操作の練習をした後、2人1組になり鬼ごっこをしました。堀江さんとペアになった方は一生懸命追いかけていましたが苦戦していました。手を使わずに進む等堀江さんの車いす操作スキルに皆様驚いていました。



ドリブル



シュート

○車いすに乗った状態でのドリブルや、シュートの体験を行いました。ドリブルでは、その場でドリブル練習を行ってから動きながらのドリブルに挑戦しました。車いすバスケのルール（トラベリング）についてもご説明いただき、参加者は2回車いすを漕いだら1回ドリブルに挑戦しました。バスケットボール経験者の方が数名おられ、車いすに乗りながらも大変上手にドリブルをされていました。車いすの操作とボールの扱いに苦戦している方が多くいましたが、繰り返し取り組むうち、徐々に慣れて上手にドリブルをされていました。また、シュート体験では2つのゴールに分かれて行き、座った状態でのシュートに苦戦しながらも楽しく挑戦しました。



○最後に5対5の試合を行いました。練習したドリブル等を使いながらゴール目指して一生懸命に取り組まれていました。試合となると相手からのプレッシャーがあり、なかなかドリブルができず、パスばかりになってしまう場面もありましたが、堀江さんからの「ドリブル！ドリブル！」という声掛けに、参加者も果敢にチャレンジしていました。シュートが決まるとゲームに参加している人だけでなく、見学されている方々も大変盛り上がり、とても良い雰囲気でした。

【ボッチャを体験してみよう】



○車いすバスケ体験と並行してポッチャ体験も行いました。初めて体験される方も多くおられましたが、年配の方も気軽に楽しめると喜ばれていました。幅広い年齢層で楽しむことができるため、行事等でもやってみたいといわれている方もおられました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「車いすバスケ体験会」では、元プロ車いすバスケ選手を迎えて普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、好評のうち無事イベントを終えることができました。体験を通して車いすバスケや障害者スポーツへの興味・関心を高められたよいイベントとなりました。今回は玉野市人権教育課題別研修講座と連携して開催し、玉野市の学校関係者や行政関係者、人権教育推進員関係者など多くの方にご参加いただきました。この体験会に参加することで子供たちやより多くの玉野市民に障害者スポーツの素晴らしさを伝えてくださる良いきっかけとなったと思います。また、年配の方も参加しやすいように車いすバスケ体験だけでなくポッチャ体験も行えるようにしたことで、実際に体験する機会ができ喜ばれていました。堀江選手の講演や実技指導は参加者にわかりやすく楽しめる内容で、初めての競技用車いすやポッチャだけでなく障害者スポーツ自体に興味を持たれた方が多くいたのではないかと思います。体験会の最後には、今後も障害者スポーツを気軽に取り組めるよう当施設で貸し出しができる障害者スポーツ用具のご案内もさせていただきました。堀江選手の講演を受け、障害があっても様々なスポーツや活動に前向きに取り組む姿勢に刺激を受けた参加者も多かったと感じます。今後も車いすバスケの普及とともに玉野市の障害者スポーツ推進に努めていきたいと思っています。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

6 「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2020年11月20日（金） 9:30～11:00

3. 場所

玉野市児童発達支援センター

4. 内容

リズム体操、風船遊び、ふわふわトランポリン、ミニトランポリン、スラックライン、フライングディスク（ドッジビー）、ボール遊び等

5. 参加者人数

未就学児（5～6歳）5名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワーク JV スタッフ（今井、大田、岡野、大西）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【スタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介などを行いました。

【リズム体操】



○リズム体操では全身を使ったダンスを取り入れ、運動不足の解消や心身リフレッシュにつながるようなプログラムにしました。ダンスは「baby shark」と「エビカニクス」の曲に合わせて簡単な振り付けで踊りました。指導員の動きを見ながら大きく体を動かして楽しんでいました。

【風船遊び】

○2人1組で向かい合って座り、タオルを使って風船運びをしました。風船を落とさないように隣の人へ渡し、最後の人はカゴの中へ風船を入れる遊びで、子供たちは落とさないように苦戦しながらも一生懸命取り組んでくれました。風船運びの後はみんなで風船をつかって自由に遊びました。

【ふわふわトランポリン、ミニトランポリン体験】



ふわふわトランポリン体験

○大きなエアートランポリンに子どもたちは大興奮でした。ミニトランポリンからふわふわトランポリンへジャンプしたり、ふわふわトランポリンの上を走ったりして終始笑顔で体を動かし、楽しんでいました。

【スラックライン体験】



○スラックラインの体験を行いました。片足ずつ進む練習を行った後に、一人ずつ指導員の手を取りながらゆっくりと前へ進みました。最後まで渡りきれた子どもたちは「やったー！」と喜んでいました。また、一生懸命取り組んでいるお友達を見て、「頑張れー！」と応援したり、渡り終わると拍手をしたりしていました。

【フライングディスク、ボール遊び等】



フライングディスク

○フライングディスク体験やボール遊びを行いました。フライングディスクは通常のものではなく、ドッジビーを用いて体験をしました。投げ方を簡単に説明した後、ゴールに向かって投げ、近くから投げたり少し遠くから投げたりしながら何度も挑戦していました。また、手作りのミニバスケットボールボードを用いて、ボール遊びができるスペースも設けました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者施設訪問型プログラム」では、普段運動機会の少ない障害者に運動を通して心や体をリフレッシュして頂く機会となり、好評のうち無事イベントを終えることができました。今回は幼児への運動プログラムということで内容や雰囲気などに、より配慮しながら体験会を実施しました。短い時間の中で子どもたちが「楽しかった!」「またやりたい!」と思ってもらえるように普段体験できないような大きなエアートランポリンを体験していただいたり、ダンスやスラックラインなども指導員と一緒に楽しみながら取り組んでもらえるよう工夫しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から様々な行事がなくなり、体を動かせる機会もなくなってしまった中でこのようなイベント開催は子供たちや職員の方、保護者の方たちにとっても大変良い機会となり、皆様に喜んでいただけました。見学に来られていた保護者の方も、「子供たちがとてもいい表情で楽しそうにしていたので良かった。保護者としてもうれしかった。」と言ってくださいました。今回は5名と少ない人数での実施だったので、まだ体験されていないお子様にも体験していただけるような機会をつくり、継続して交流していきたいと思えます。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

7 「障害者スポーツ体験会」 報告書

1. 趣旨

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、障害者スポーツの取組みが定着するよう、小学校訪問型普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体と連携強化を図る。

2. 実施日

2021年1月15日（土） 16:15～17:45

3. 場所

大崎小学校 体育館

4. 内容

障害者スポーツ体験（ブラインドサッカー、ボッチャ、競技用車いす）

5. 参加者人数

大崎小学校児童クラブ1年生～3年生 11名

6. 講師

JVスタッフ 今井、大田

7. 「ブラインドサッカー体験会」の様子

【挨拶】



挨拶、ブラインドサッカーについてなど

【視覚障害者の気持ちを体験してみよう】



2人組になり、1人がアイマスクをつけた状態での準備体操

○指示した動き（ストレッチ）を見て、目の見えている人が見えていない人に声だけで正しい動きを伝えることに挑戦しました。声だけで動きを伝える難しさに苦戦しながらも一生懸命に取り組んでいました。



アイマスクを付けた状態で仲間の所まで歩く



ボールを手で拾い、仲間の所まで届ける

○2つのグループ（1年生、2・3年生）に分かれて仲間の声を頼りに歩いたり、真ん中にあるボールを拾って仲間にボールを届けたりしました。目の見えている人の声かけの大切さや、どのような声掛けをしようか考えながら取り組んでいました。目の見えない環境に怖さを感じながらも、グループ全員で声を掛け合い、楽しんでいました。

【ブラインドサッカー体験】



コーンの間にボールを蹴る

○コーンの間にボールを蹴って通せるか挑戦しました。2番目の人は、アイマスクをしている人の足元にボールを置く時に、ボールの音を出しながら「どっちの足で蹴る？」
「ボール置いたよ」と声をかけながら協力して取り組んでいました。

【ボッチャ、競技用車いす体験】



ボッチャ体験



競技用車いす体験

○ボッチャと競技用車いす体験を行いました。ボッチャは2チームに分かれて2試合行いました。はじめはボールの重さや投げ方でどのくらい進むのかわからず、力を入れすぎて遠くに投げてしまった人もいましたが、一度体験した後は、どのように投げると白いボール（ジャックボール）に近づけることができるか、考えながら取り組んでいました。競技用車いす体験では、車いすに乗って進んだり、ターンをしたりしながらの車いす操作を行いました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者スポーツ体験会」では、普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、興味・関心を高められたイベントとなり、好評のうち無事イベントを終えることができました。ブラインドサッカー体験では、視覚障害者の気持ちや大変さなどを知ることができる良い機会となり、どのようにすればよいコミュニケーションがとれ目標が達成できるのか、目の見えない人達の立場になって考えながら体験を行うことができました。今回は低学年の子供たちのみの実施だったので、プログラム内容やアイマスク着用への配慮などを行いながら体験会を進めました。アイマスクを付けた状態での体験で、恐怖

感など感じた場合は、無理をせずアイマスクを外したり、自分で目を閉じるだけにするなど、選択肢を与えて体験しやすい案内を行うよう工夫しました。競技用車いすやボッチャ体験では、初めて行う競技に子供たちは興味津々で、とても楽しそうに取り組んでいました。はじめはアイマスクや車いすなどに恐怖心を持っていた子も、仲間と協力して目標を達成するうち楽しさを感じ、体験会終了後には、参加者全員が「楽しかった、またやりたい」と言ってくれました。今後もより多くの方に体験していただき、一人でも多くの方が障害者スポーツに関心を持ち、今後の障害者スポーツ推進につながるよう、継続して行っていきたいと思います。

2. 3年目の取組を終えた担当者の感想

○板野慎一郎 玉野市教育委員会社会教育課文化・スポーツ係長

本事業には1年目から関わり、全くのゼロの段階から、玉野スポーツネットワークJVとともに試行錯誤しながら取り組んできたが、どんどん内容が充実し、様々な方とのつながりができ、そして多くの方の協力をいただき実施した事業では多くの参加者から大変満足したとの声が届き、丸々3年間携われたことは本当にいい経験になった。

新型コロナの影響で一部中止や、計画していた内容を変更して実施するなど、大変な最終年度となったが、実施できた事業では特にトラブルもなく、正に経験の蓄積が功を奏したと言えます。

スポーツ庁委託事業としては今年度で終了となるが、今後も引き続き、各方面との連携を維持し、本市における共生社会の実現に少しでも近づけるよう、障害者スポーツの定着に寄与していきたい。

○森本 直樹 玉野市教育委員会社会教育課社会教育係主事

昨年度より、主に社会教育分野での子ども達や教職員への障害者スポーツの普及について関わりを持たせてもらった。その中で特に意識したことは、障害者スポーツを通じた「つながり」作りについてである。今年度はその意識を実践につなげていけるよう、まず他事業と連携できるよう、例年スクール形式で行う機会が多い市民、教職員等を対象とした人権教育研修講座で障害者スポーツ体験会を実施した。

また教職員を対象とした研修では、体験するだけに終始するのではなく、障害者スポーツに関する器具の紹介をするなぞ、研修後にも参加者が障害者スポーツとのつながりを持ち、各箇所では障害者スポーツ普及が進むよう意識した。その結果、地域の方からの要望により放課後子ども教室での障害者スポーツ体験会の実施が決定している。

障害者スポーツは障害があってもなくても、参加者全員が同じ土俵に立ち楽しむことができる。そして、コミュニケーションや信頼が特に必要とされる。人と人とのつながりづくり・集団作りの観点からも効果的であると感じている。今後も以上の「つながり」を意識し、障害者スポーツの普及に努めてまいりたい。

○今井 誠 玉野スポーツネットワークJV管理責任者

今年度は新型コロナウイルスの影響により、残念ながら実施できなかったイベントもありましたが、様々なスポーツを通じて障害者への理解や障害者スポーツの普及に取り組むことができました。初実施であった荘内児童発達支援センターでの未就学児対象イベントや、同舟の園での訪問プログラムでは、今後の継続した障害者スポーツ推進活動において大変学びとなりました。施設の先生方やスタッフの方々に、実施するうえでの注意点や工夫する点をお聞きしたり、私たちが提供できる運動や用具のお話ができたりと、それぞれの施設と多くコミュニケーションを図ることができました。また、当施設で実施した障害者スポーツイベントでも、岡山県で活動されている車いすバスケットチームの選手を講師に迎えるなど、障害者スポーツを通して障害者と健常者が共に助け合い楽

しむことで、地域のつながりを広げられたと思います。今後も障害者スポーツ推進に努め、障害者スポーツ体験会や大会開催など、障害者スポーツをより身近に感じられるようなイベントづくりにも取り組みたいと思います。

3. 参考資料

障害者スポーツ推進実行委員会 名簿

妹尾 均	玉野市教育委員会教育長
妹尾 恵美	玉野市教育委員
藤原 敬一	玉野市教育委員会教育次長
小崎 隆	玉野市健康福祉部長
高橋 千恵	玉野市政策財政部総合政策課課長補佐
白井 福美	玉野市スポーツ推進委員
今井 誠	玉野スポーツネットワークJV管理責任者
岡崎 靖子	玉野市地域子ども楽級コーディネーター
大田 卓男	玉野市サッカー協会副会長
五嶋 幹雄	玉野総合医療専門学校介護福祉学科長
丸本 明奈	宇野港フットサルコートマネージャー
杉本 磯治	玉野市身体障害者福祉連合会 会長

(実行委員会の開催)

令和2年7月30日 試行プログラム基本方針等の協議 等

令和3年2月19日 試行プログラムの取組の評価・事業のまとめ 等

おわりに

本市は、若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）」の具体化の1つとして、本報告書で紹介させていただいたような障害者スポーツの取組を推進することにより、共生社会実現に向けて取り組んでいるところですが、令和2年度からの「たまの創生総合戦略」において初めて障害者スポーツ事業が重点事業として掲載されるなど、本市の中でも重要な位置を占めており、本事業にこれまで御協力いただいた関係者の皆様に大変感謝しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、本市教育委員会所管の様々な行事が中止や延期となり、大変な1年間ではありましたが、障害者スポーツ事業に関しましては、一部中止はあったものの、感染防止対策に努め、内容を工夫しながら実施してまいりました。そういった中で、パラスポーツの魅力・意義を多くの人に伝えられるよう、スポーツ推進委員・教員等への普及はもちろんのこと、障害福祉団体等障害当事者との連携を深めていくことが非常に重要だと感じました。

委託事業としては今年度までですが、今後も市立体育施設が障害者スポーツの拠点機能を担えるよう、障害福祉部局をはじめ、市内外の様々なネットワークを強固なものとし、市としても関係部局と連携を図りながらこの取組を引き続き推進してまいりたいと考えております。

本市の取組は、障害者スポーツ専用施設などを持つことができないような、小規模の自治体でも応用可能な内容だと思っています。各自治体でネットワークの拠点をどこにするかは、自治体それぞれだと思いますが、いずれにせよ、多分野の方とつながっていくことができる障害者スポーツのネットワークの拠点を持つことが成功への近道だと感じております。本市も引き続き、共生社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。

玉野市教育委員会 教育長 妹尾 均